

株主名簿

(昭和十四年十月三十一日現在)

株數	氏名	府縣別	株數	氏名	府縣別
一、五〇〇	原清重	福岡	九五〇	茨木末男	京都
一、五〇〇	小橋朝雄	岡山	九五〇	大原尙恒	東京
一、五〇〇	田本辰治郎	福井	一、〇五〇	田中康一	徳島
二、五〇〇	永原修次	大阪	一、〇五〇	西松元吉	東京
二、八〇〇	藤倉潔	東京	一、〇五〇	馬場正健	東京
四、五〇〇	西松三好	東京	一、〇五〇	平井増太郎	山口
六、〇〇〇	林米七	東京	一、〇五〇	西松源之助	東京

四〇〇	小森榮太郎	富山	三七〇	高橋龜次郎	愛媛
四五〇	西松醇厚	東京	四〇〇	友原繁	福岡
六〇〇	佐野勇吉	東京	四〇〇	竹中改造	山口
六五〇	松本茂	富山	四〇〇	飛永與津雄	福岡
七〇〇	弓削淡	東京	四〇〇	小川正直	熊本
七〇〇	藤井宗一	熊本	四〇〇	西松康友	熊本
八〇〇	高橋彪	高知	四〇〇	小林光鎮	神奈川
九〇〇	宮川清	福岡	四〇〇	有馬覺治	鹿兒島

二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二二〇	二二〇	二五〇
本 田 榮 吉	荒 川 沉 四 郎	岡 本 義 人	杉 本 三 吾	阪 本 丁 次	神 田 富 作	竹 島 建 太 郎	内 野 喜 三 郎
熊 本	福 岡	島 根	山 梨	東 京	熊 本	大 阪	長 崎
一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一九〇
中 村 正 義	川 村 茂	二 階 清 吉	田 本 龍 三	横 山 善 幾	弓 削 郁 三 郎	土 田 繁 夫	大 槻 鶴 吉
香 川	宮 城	鹿 兒 島	福 井	島 根	千 葉	島 根	京 都

三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
高 橋 伊 之 介	近 藤 昱 助	林 金 市	松 岡 正 雄	片 山 久 平	井 口 泰 吉	島 田 三 吉	上 田 良 一
山 口	愛 媛	山 口	山 口	新 潟	滋 賀	茨 城	山 口
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
谷 山 恒 夫	齋 藤 德 次 郎	松 島 昭 充	秦 千 尋	渡 部 武 吉	石 川 義 人	原 新 平	關 谷 虎 以
熊 本	神 奈 川	東 京	大 分	東 京	廣 島	福 岡	新 潟

一五〇	菊地清	東京	一五〇	戸澤龜之助	鹿兒島
一五〇	矢野亨	高知	一五〇	水田辰造	熊本
一五〇	中地榮次	佐賀	一〇〇	井關源市	鳥取
一五〇	河合太兵衛	愛知	一〇〇	柴田直道	東京
一五〇	門田見耕作	宮崎			
一五〇	鶴岡徳藏	徳島			
一五〇	黒葛原兼穂	鹿兒島			
一五〇	兒玉文作	山口			
			計	七十四名	
			四五、〇〇〇		

尙昭和十五年一月第三回總會以後株主中左の異動を見ました

死亡讓渡 上田良一、關谷虎以、弓削郁三郎

新株主 西口 萬三、齋藤左武郎（以上各一五〇株）

秦 孝光、野間口貞之、山下 榮一、荒木 常夫  
 馬場 龍雄、坂口 安夫、平尾 龜一、橋口 建兒  
 野間口忠吉、今關 忠二（以上各一〇〇株）

持株變更 林 米七（六〇五〇） 田本辰治郎（一〇〇〇）

西松源之助（一〇〇〇） 西松 元吉（一〇〇〇）  
 平井増太郎（九五〇） 馬場 正健（九五〇）  
 飛永與津雄（五〇〇） 友原 繁（五〇〇）

株式會社西松組規則

第一章 總 則

第一條 當會社ハ定款並ニ本規則ニ基キ業務ヲ執行ス

第二條 當會社ハ必要ニ應シ支店、營業所、出張所及派出所ヲ設置ス但シ特殊工事ノ爲特別ノ分掌ヲ定メタル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第二章 職 制

第三條 當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役社長	一 名
取締役副社長	若 干 名
常務取締役	若 干 名
取 締 役	若 干 名
監 査 役	三 名 以 內

第四條 當會社ニ左ノ職員ヲ置ク

技 師 長	
參 事	
社 員	(技師、事務員、及工務員ニ分ツ)
雇 員	(事務員及工務員ニ分ツ)

必要ニ應シ相談役、顧問及囑託ヲ置ク

第五條 當會社ノ業務ヲ執行スル爲本社ニ左ノ四部ヲ置ク

- 庶務部
- 會計部
- 營業部
- 工 事 部

第六條 各部ニ部長及部員若干名ヲ置ク

第七條 支店ニハ支店長、次長及左ノ係ヲ置キ内一名ヲ主任トス

庶務係 若干名

會計係 同

工事係 同

第八條 事務所ニハ事務所長及其ノ分掌ニ依リ次長及係長ヲ置ク

第九條 營業所及出張所ニハ主任及左ノ係ヲ置ク

庶務係 若干名

會計係 同

工事係 同

第十條 派出所ニハ主任ヲ置カス係員若干名ヲ置ク

第十一條 第五條乃至第十條ノ諸係ハ之ヲ兼務スルコトヲ得

### 第三章 職務

#### 第一節 役員ノ職務

第十二條 社長ハ一切ノ業務ヲ總理ス

第十三條 副社長ハ社長ヲ補佐シ社長事故アルトキハ之ヲ代行ス

第十四條 常務取締役ハ社長ヲ補佐シ日常ノ業務ヲ處理ス

第十五條 左ノ事項ハ取締役會ノ決議ヲ以テ執行スルモノトス但シ緊急ヲ要スルモノハ臨機ノ處置ヲナシ事後取締役會ノ承認ヲ求ムルヲ要ス

一 株主總會ノ召集及之ニ提出スル議案ニ關スル事項

二 規則ノ制定及改廢ニ關スル事項

三 支店、事務所、營業所及出張所ノ設置並ニ廢止ニ關スル事項

四 支店長其他ノ特別委任ニ關スル事項

五 職員ノ任免及待遇ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第十六條 取締役會ノ決議録ニハ各取締役署名捺印スルヲ要ス

第十七條 監査役ハ業務及財産ノ状態ヲ監査シ取締役會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

#### 第二節 職員ノ職務

第十八條 技師長ハ社長ヲ補佐シ技術ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十九條 參事ハ業務上重要ナル事項ニ參與シ役員ヲ補佐ス

第二十條 社員ハ上長ノ命ヲ承ケ業務ニ従事ス

第二十一條 雇員ハ所屬上長ノ命ヲ承ケ業務ニ従事ス

第二十二條 各部長ノ職務左ノ如シ

一 役員ヲ補佐シ所屬員ヲ監督シ部内ノ事務ヲ處理ス

二 其ノ他役員ヨリ特ニ命セラレタル事項並ニ他部トノ連絡事務ヲ處理ス

第二十三條 支店長ノ職務左ノ如シ

一 役員ヲ補佐シ所屬員ヲ監督シ所管内工事及事務ヲ處理ス

二 其ノ他役員ヨリ特ニ命セラレタル事項

三 臨時傭人ノ命免事項

第二十四條 支店長左ノ事項ヲ執行スルニ當リテハ役員ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一 工事收支豫算ノ變更並ニ配下選定ニ關スル事項

二 一口ニ付十萬圓以上ノ工事請負契約締結ニ關スル事項

三 一口ニ付五千圓以上ノ建物新築及物品購入ニ關スル事項

四 一口ニ付一千圓以上ノ不用建物及物品賣却ニ關スル事項

第二十五條 營業所及出張所主任ノ職務左ノ如シ

一 役員又ハ支店長ノ命ヲ承ケ所屬員ヲ督勵シ所管内工事及事務ヲ處理ス

二 其ノ他役員又ハ支店長ヨリ特ニ命セラレタル事項

三 臨時傭人ノ命免事項

第二十六條 營業所及出張所主任左ノ事項ヲ執行スルニ當リテハ役員及支店長ノ許可ヲ受クルヲ

要ス

一 一口ニ付三萬圓以上ノ工事請負契約締結ニ關スル事項

二 一口ニ付三千圓以上ノ建物新築及物品購入ニ關スル事項

三 一口ニ付五百圓以上ノ不用建物及物品賣却ニ關スル事項

第二十七條 事務所長ノ職務ニ關シテハ臨時役員之ヲ定メ係長ニ對シテハ其ノ職務ニ應シ前條ノ

規定ヲ準用ス

第四章 業務ノ分掌

第二十八條 庶務部ノ業務左ノ如シ(店所ノ庶務係ニ之ヲ準用ス)

- 一 株主總會ニ關スル事項
- 二 取締役會ニ關スル事項
- 三 社印及役員ノ印鑑保管
- 四 株式ニ關スル事項
- 五 契約並ニ願届等ノ取扱事務ニ關スル事項
- 六 人事ニ關スル事項
- 七 勞働者災害保險ニ關スル事項
- 八 共濟組合及生命保險團體ニ關スル事項
- 九 文書ノ發送、受領並ニ保管ニ關スル事項
- 十 統計、社報並ニ廣告ニ關スル事項

十一 支店、其ノ他ノ庶務ニ關スル事項

十二 其ノ他、他ノ部ニ屬セサル事項

第二十九條 會計部ノ業務左ノ如シ(店所ノ會計係ニ之ヲ準用ス)

- 一 金錢ノ出納及保管ニ關スル事項
- 二 不動産及有價證券ノ管理並ニ運用ニ關スル事項
- 三 調度品購入ニ關スル事項
- 四 豫算及決算ニ關スル事項
- 五 帳簿及證憑書類ノ整理並ニ保管ニ關スル事項
- 六 損益計算書、貸借對照表及財産目錄ニ關スル事項
- 七 租稅並ニ公課ニ關スル事項
- 八 預金ニ關スル事項
- 九 支店、其ノ他ノ會計ニ關スル事項

第三十條 營業部ノ業務左ノ如シ(店所ノ工事係ニ之ヲ準用ス)

- 一 業務上ノ社外折衝ニ關スル事項
  - 二 營業計畫ニ關スル事項
  - 三 支店、其ノ他ノ營業ニ關スル事項
  - 四 工食用機械器具及材料ノ購入並ニ不用品賣却ニ關スル事項
- 第三十一條 工部ノ業務左ノ如シ（店所ノ工事係ニ之ヲ準用ス）
- 一 工事見積及入札ニ關スル事項
  - 二 工事ノ豫算及決算ニ關スル事項
  - 三 工事ノ測量、設計、製圖及施行ニ關スル事項
  - 四 技術研究ニ關スル事項
  - 五 工食用機械、器具及材料ノ調査研究ニ關スル事項
  - 六 工食用機械、器具ノ修理及保管並ニ運用ニ關スル事項
  - 七 工事成績調査並ニ督勵ニ關スル事項

#### 第五章 事務取扱

##### 第一節 庶務事務

- 第三十二條 來信ハ庶務部ニ於テ之ヲ受領シ着信簿ニ記入ノ上各部ニ配付スヘシ  
發信ハ各部ヨリ之ヲ取纏メ發信簿ニ記入ノ上之ヲ發送スヘシ
- 第三十三條 社内相互間ニ於ケル公文書ハ總テ本社又ハ店所宛トスヘシ
- 第三十四條 各所ヨリノ稟議ニシテ支店長ヲ經テ役員ノ承認ヲ要スルモノハ三通、其ノ他ノモノハ二通ヲ提出スヘシ
- 本社又ハ支店ニ於テ前項ノ稟議ヲ受ケタルトキハ其ノ副書ニ意見ヲ付シ返送スルモノトス
- 第三十五條 工事契約締結ニ際シテハ役員ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第三十六條 本節ノ條項ハ店所ノ庶務係ニ之ヲ準用ス

##### 第二節 會計事務

- 第三十七條 金錢ノ出納ハ本社ニ在リテハ役員ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ但シ定例ノ支拂ハ事後承認ヲ受クヘシ
- 第三十八條 各店所ニ對シ工事資金及有價證券等ヲ送付スルトキハ役員ノ承認ヲ得ルヲ要ス



第三十九條 會計部ハ毎月十五日迄ニ各店所ノ勘定ヲ締切リ左ノ諸表ヲ役員ニ提出スヘシ

一 總勘定表

二 科目明細表

三 取下金一覽表

四 資金對照表

五 各店所ノ會計ニ關スル諸傳票

第四十條 會計部ハ左記書類ヲ定時株主總會十日前迄ニ役員ニ提出スヘシ

一 損益計算書

二 貸借對照表

三 財産目錄

第四十一條 當會社ノ勘定科目左ノ如シ

本社ノ部

- 一株 金
- 二 未拂込株金
- 三 法定積立金

- 四 職員退職手當準備金
- 五 別途準備金
- 六 營業權
- 七 土地及家屋
- 八 有價證券
- 九 機械、器具及什器
- 一〇 借入有價證券
- 一一 契約保證金
- 一二 借入金
- 一三 諸預リ金
- 一四 預ケ金
- 一五 支店營業所及出張所
- 一六 假受金
- 一七 假拂金
- 一八 工事費
- 一九 雜工事費
- 二〇 請負先保留金
- 二一 工事附帶費
- 二二 事務所費
- 二三 給料
- 二四 手當
- 二五 職員賞與金
- 二六 旅費
- 二七 雜費
- 二八 臨時費
- 二九 調査費
- 三〇 租稅及公課
- 三一 貯藏品
- 三二 諸利息
- 三三 社内資金利息
- 三四 未收入利息
- 三五 未經過割引料
- 三六 資産收入
- 三七 雜收入
- 三八 未收入金
- 三九 前(後)期繰越金
- 四〇 工事精算金
- 四一金
- 銀

支店及營業所ノ部

一 有價證券	二 契約保證金	三 借入金
四 預ケ金	五 本社、營業所及出張所	六 假受金
七 假拂金	八 工事費	九 雜工事費
一〇 請負先保留金	一一 工事附帶費	一二 事務所費
一三 給料	一四 手當	一五 旅費
一六 雜費	一七 調査費	一八 租稅及公課
一九 貯藏品	二〇 諸利息	二一 社内資金利息
二二 雜收入	二三 未收入金	二四 工事精算金
二五 金銀		
出張所ノ部		
一 本社及支店	二 假受金	三 假拂金
四 工事費	五 雜工事費	六 請負先保留金

第四十二條 當會社ニ備フヘキ帳簿左ノ如シ

本社ノ部

七 工事附帶費	八 事務所費	九 給料
一〇 手當	一一 旅費	一二 雜費
一三 租稅及公課	一四 貯藏品	一五 諸利息
一六 社内資金利息	一七 雜收入	一八 未收入金
一九 工事精算金	二〇 金銀	
支店及營業所ノ部		
一 金錢出納帳	二 日記帳	三 總勘定元帳
四 勘定明細簿	五 貸借對照表	六 財產目錄
一 金錢出納帳	二 勘定明細簿	

イ 出張所勘定明細簿

ロ 配下勘定簿

出張所ノ部

一 金銭出納帳

二 勘定明細簿

イ 配下勘定簿

ロ 配下渡金内譯簿

ハ 物品出入簿

ニ 貯藏品内譯簿

第四十三條 本節ノ條項ハ店所ノ會計係ニ之ヲ準用ス

第三節 營業事務

第四十四條 工所用機械、器具及諸材料ノ購入ハ當該上長ノ承認ヲ得所定ノ手續ヲ經テ之ヲ爲ス  
ヘシ廢棄及賣却ノ場合亦同シ

第四十五條 本節ノ條項ハ店所ノ工事係ニ之ヲ準用ス

第四節 工事事務

第四十六條 工事見積ニ際シテハ現場ヲ調査シ見積書ヲ作成シ技師長ノ査閲ヲ經役員ノ承認ヲ得

テ入札スヘシ

第四十七條 工事ノ着手ニ際シテハ工程及設備等總テ當該上長ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 工事ノ施行ニ際シテハ直ニ實行豫算及配下割出ヲ作製ノ上稟議スヘシ但シ本條ニ依  
リ難キ場合ハ特ニ役員ノ承認ヲ受クヘシ

第四十九條 測量、設計及圖面ニ關スル事務ハ當該上長ノ指揮ニ基キ之ヲ處理スヘシ

第五十條 本節ノ條項ハ店所ノ工事係ニ之ヲ準用ス

第五節 店所ノ事務

第五十一條 各店所ノ事務取扱ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本節ノ條項ニ依ル

第五十二條 各店所ハ事務及工事ニ關スル左記ノ報告其ノ他特ニ定メラレタル書類ハ遲滯ナク本  
社ニ發送スヘシ

一 委任狀ノ使用報告(其ノ都度)

二 店所ノ設置、廢止、移轉及名稱變更(其ノ都度)

三 人事異動及臨時傭人ノ命免(其ノ都度)

- 四 労働者災害保険ノ契約申込書記載事項變更届並ニ工事終了届ノ寫本(其ノ都度)
- 五 保険金請求報告票(毎月二十日締切)
- 六 毎月中ノ工事狀況報告(毎月二十五日締切)
- 七 工事入札月報及工事着手竣功月報(毎月月末締切)
- 八 出勤簿

第五十三條 金錢ノ出納ハ上長ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ但シ定例ノ支拂ハ事後承認ヲ受クヘシ

第五十四條 取下金ヲ流用スルトキハ役員ノ承認ヲ受クヘシ

第五十五條 工費ノ支拂ハ毎月一回トス但シ止ムヲ得サル場合ハ上長ノ承認ヲ得テ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 各所ハ毎月五日迄ニ左ノ諸表ヲ本社又ハ支店ニ提出シ、支店ハ十日迄ニ之ヲ總括シテ本社ニ提出スヘシ但シ配下勘定一覽表(前表)及資金請求書ハ其ノ月ノ二十五日迄ニ提出スヘシ

一 總勘定表

二 取下金請求書(寫)

三 配下勘定一覽表(後表)

四 金銀ニ關スル諸傳票

第五十七條 各店所ニ於テ工事見積又ハ入札ノ指名ヲ受ケタルトキハ其ノ工事名稱、種別、數量其ノ他必要ナル事項ヲ本社ニ速報シ指揮ヲ受クヘシ

第五十八條 入札委任ヲ受ケタルトキハ開札執行後直チニ入札狀況報告書ヲ本社ニ提出スヘシ

第五十九條 配下ニ對スル支拂ハ左ノ各項ニ依ルモノトス

一 工費ハ出來高數量ニ依ル

二 前號ニ依リ支拂爲シ難キ場合ハ速カニ之ニ關スル一切ノ書類ヲ添付シテ單價更正ノ稟議ヲ爲シ承認ヲ受クヘシ

三 一時的ニ出來高ノミニ依リ難キ場合ハ其ノ實狀ヲ精査シ當該上長ノ指揮ヲ受クヘシ

四 配下ヨリ資金ノ融通ヲ願出タル場合ハ當該主任ハ其ノ理由ヲ精査シ事情止ムヲ得スト認メタルトキハ稟議ノ上、上長ノ承認ヲ受クルヲ要ス但シ此ノ場合ハ工事竣功迄ニ一定ノ利息ヲ



ニ依リ冬季工事休止期間中十四日間ノ休暇ヲ與フ

第六十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ其ノ理由ヲ詳記シテ届出ツルヲ要ス但シ缺勤七日以上ニ及フトキハ豫メ上長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十七條 職員ニシテ一般ノ模範ト認ムヘキ者及特ニ功勞アリタル者ニハ左ノ賞ヲ行ヒ又本規則ニ違背行爲アリタル者ニハ左ノ罰ヲ行フ

賞

一 昇給

二 賞與

三 表彰

罰

一 譴責

二 減給

三 解職

### 第七章 主任會議

第六十八條 主任會議ハ役員又ハ支店長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開陳シ事務及工事上ノ改良並ニ刷新ヲ計ルヲ目的トス

第六十九條 主任會議ハ役員又ハ支店長之ヲ招集ス但シ必要ニ應ジ關係職員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第七十條 主任會議ノ議長ハ役員又ハ支店長トシ議事録ヲ作成シ其ノ要項ヲ本社ニ報告スヘシ

### 第八章 業務調査

第七十一條 各店所ニ於ケル會計事務及工事實狀ヲ調査スル爲特ニ本店ヨリ係員ヲ派遣スルコトアルヘシ

### 第九章 職員ノ待遇

第七十二條 職員ノ任免ハ總テ辭令ヲ以テ之ヲ行フ

第七十三條 職員ハ當會社ニ於テ承認スル二名以上ノ保證人ヲ定メ別ニ定ムル誓約書並ニ戶籍謄本ヲ差出スヲ要ス但シ保證人ハ當會社ノ役員又ハ職員以外ノ者タルヘシ

第七十四條 職員ノ停年ハ滿六十歳トス但シ停年ニ達シタル場合ト雖モ業務ノ都合ニ依リ引續キ在職セシムルコトアルヘシ

第七十五條 職員停年ニ達セサル場合ト雖モ左ノ場合ニ於テハ待命又ハ解職ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 業務ノ都合ニ依ルトキ
- 二 病氣缺勤長期ニ亙ルトキ
- 三 第六十七條ノ罰三號ニ該當スルトキ

第七十六條 職員ハ左ノ事項ニ依リ休職ヲ命セラルルモノトス但シ休職期間ハ社員ニ在リテハ一年雇員ニ在リテハ六ヶ月トス

- 一 業務ノ都合ニ依ルトキ
- 二 待命後六ヶ月ヲ經過シタルトキ
- 三 病氣缺勤六ヶ月以上、事故缺勤二ヶ月以上ヲ經過シタルトキ
- 四 承認ヲ得テ學校ニ入學シタルトキ

前項第二號及第三號ノ經過期間ハ雇員ノ場合ハ之ヲ半減ス

休職期間滿了セル場合ト雖モ事情ヲ斟酌シ更ニ之ヲ延長スルコトアルヘシ

## 第十章 給 與

### 第一節 給 料

第七十七條 職員ノ給料等級ハ第一號表トシ給料支給日ハ毎月二十五日トス但シ入社ノ月ハ辭令ノ日附ニ依リ日割計算トシ退社ノ月ハ全額支給ス

第七十八條 職員病氣缺勤六ヶ月以内、事故缺勤二ヶ月以内ハ本給料ノ全額ヲ支給ス但シ雇員ハ此ノ期間ヲ半減ス

第七十九條 職員待命中ハ本給料ノ三割ヲ、休職ノ場合ハ五割ヲ減給ス但シ第七十六條第一項第四號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ支給セス

第八十條 兵役ノ爲徵集又ハ召集セラレタル者ニ對スル給與ニ付テハ 二於テ適宜之ヲ定ム

### 第二節 賞 與

第八十一條 職員ニハ其ノ職責、勤務、給料額及勤務地ノ狀況並ニ營業成績ニ基キ毎年暑中並ニ

年末ニ賞與ヲ給ス

前項ノ外、特ニ營業成績良好ナル場合ハ特別賞與ヲ給スルコトアルヘシ

第八十二條 工事中又ハ竣功ニ當リ關係職員ノ功勞及工事ノ成績ヲ斟酌シ特ニ慰勞金ヲ給與スルコトアルヘシ

### 第三節 在勤手当

第八十三條 職員臺灣、朝鮮、滿洲及支那ニ勤務スル場合ハ第二號表ニ依ル在勤手当ヲ支給シ、特ニ危險ナル地域在勤者ニハ尙傷害保險ヲ附スルモノトス、但シ私用ノ爲メ在勤地ヲ離レ缺勤全月ニ及フ場合ハ其ノ月ニ限り之ヲ支給セス

第八十四條 樺太、朝鮮、滿洲又ハ支那等ノ特別寒地ニ在勤スル者ニ對シテハ防寒具料ヲ一回限リ支給スルコトアルヘシ

### 第四節 住宅手当

第八十五條 職員ニ對シテハ第三號表ニ依ル住宅手当ヲ支給ス但シ會社ノ建物ニ居住スルモノニ對シテハ之ヲ支給セス

第八十六條 職員妻帯者ニシテ勤務ノ都合ニ依リ所屬店所ノ建物ニ單獨寄宿スル者ニ對シテハ前條但書ニ拘ハラズ役員ノ承認ヲ得テ勤務地ノ住宅手当ヲ支給スルコトアルヘシ

### 第五節 退職手当

第八十七條 職員ノ退職手当ハ第四號表ニ依リ算出シタル金額ヲ基準トシ其ノ職責、功勞並ニ退職ノ事情及勤務成績等ヲ斟酌シ役員之ヲ定ム

第八十八條 職員死亡ノ場合ハ前條ニ依ル退職手当ノ外役員ニ於テ弔慰金額ヲ定メ遺族ニ之ヲ贈與ス

### 第六節 死傷手当

第八十九條 職員職務上ニ基因シ負傷又ハ死亡シタル場合ハ之ニ要シタル費用ハ會社ノ負擔トシ別ニ役員ニ於テ見舞金若ハ弔慰金額ヲ定メ本人又ハ遺族ニ之ヲ贈與ス

前二條ノ遺族ハ其ノ順位ヲ配遇者、子、父母、祖父母、兄弟、姉妹トシ職員死亡當時之ト同一戸籍内ニ在ルヲ要ス

前項ニ該當スル遺族ナキ場合ハ死亡職員ノ同居者ニ之ヲ贈與スルコトアルヘシ



第七節 職員慶弔其ノ他

第九十條 職員吉凶アリタルトキハ第五號表ニ依ル慶弔金ヲ贈與ス

第九十一條 職員ハ別ニ定ムル當會社共濟組合ニ加入スル義務アルモノトス

第九十二條 役員及職員（雇員ヲ除ク）ハ別ニ定ムル明治生命保險株式會社ト特約セル生命保險團體ニ加入スルコトヲ得

第九十三條 職員中電話架設ノ必要ヲ認メタルトキハ會社ノ費用ヲ以テ之ヲ架設使用セシム

當該電話ノ基本料金、市内通話料及社用ニ依ル市外通話料ハ會社ノ負擔トス

第十一章 旅 費

第九十四條 役員及職員業務又ハ轉勤ノ爲旅行シタルトキハ第六號表ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ出發前概算ニ依ル前金拂ヲナスコトヲ得

第九十五條 旅費ハ順路ノ行程ニ依リ支給ス但シ日當及宿泊料ハ出發ヨリ歸着又ハ新任地到着迄ノ日數並ニ宿泊數ヲ旅行日誌ニ依リ計算ス

第九十六條 出張中自宅宿泊ノ場合ハ日當ノミヲ支給シ私用滞在ノ日ハ日當及宿泊料ヲ支給セス

第九十七條 職員結婚ノ爲許可ヲ得テ歸郷ノ場合ハ本人ニハ第六號表ニ準據シテ往復旅費ヲ支給シ妻ニ對シテハ任地迄ノ實費旅費ヲ給ス

第九十八條 家族ノ危篤又ハ死亡ノ爲許可ヲ得テ其ノ所在地ニ旅行シタルトキハ本人又ハ其ノ代理人一名ニ限り往復ノ旅費ヲ支給スルコトアルヘシ

第九十九條 兵役ノ爲旅行スル者ニハ特ニ實費旅費ヲ支給ス但シ徵兵検査並ニ簡閱點呼ハ勤務ノ都合上在勤地ニ於テ受クルコト能ハサリシ場合ニ限ル

召集ノ場合家族ノ歸郷スル旅費ハ其ノ實費全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第一百條 轉勤者ノ赴任旅費ハ第六號表ニ依ル旅費並ニ第七號表荷物運賃及左ノ手當ヲ支給シ家族ニ對シテハ實費ヲ支給ス

一 單獨赴任ノ場合

日當五日分

二 家族同伴ノ場合

日當二十日分

二十料ニ達セサル轉勤者ニ對シテハ前項荷物運賃及日當ハ半額トス

第一百一條 新任地ニ於テ住宅及宿泊所ノ設備ナキ爲旅館ニ滞在ノ止ムナキ場合ハ着任ノ日ヨリ

五日以内ヲ限り定額ノ日當及宿泊料ヲ支給シ家族ニ對シテハ實費ヲ支給ス

第二百一條 轉勤ノ場合單身赴任後承認ヲ得テ家族引越ノ爲家族所在地ニ往復シタルトキハ往復ニ要スル旅費(第六號表)ノ外第百條第一項第一號ノ支給ヲ受ケタルモノニ對シテ之レト同第二號トノ差額ヲ支給ス

荷物運賃ニ付テモ亦同シ

第二百三條 各店所所在地ニ出張中ハ其ノ店所ニ宿泊スヘシ此ノ場合ハ日當ノミヲ支給ス

第二百四條 同一地方ノ出張三十日以上ニ亙ル場合ハ本規定ニ依ル日當及宿泊料ヲ支給セス

第二百五條 營業所又ハ出張所ノ在勤者其ノ管内ニ旅行スル場合ノ旅費ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ旅費ニ付テハ當該主任ヨリ管内旅費規定ヲ作成シ稟議スヘシ

第二百六條 新規採用ノ爲呼寄せタル場合ハ旅費ヲ支給セス但シ特別ノ事情アル場合ハ實費ヲ支給スルコトアルヘシ

第二百七條 職員勤務地ニ於テ死亡シタルトキハ其遺族ニ對シ歸郷又ハ居住地迄ノ移轉實費ヲ支給ス

第二百八條 本規則ニ於テ家族ト稱スルハ同一戸籍内ニ在ル同居者並ニ當會社ノ認メタル同居者ヲ謂フ

## 第十二章 社 報

第二百九條 毎月一回社報ヲ發行シ各店所ニ配布ス

其ノ掲載要項左ノ如シ

- 一 規則ノ改廢及研究事項
- 二 工事狀況
- 三 工事入札(落札及不落札ニ區別掲載)
- 四 店所ノ設置、廢止、移轉及名稱變更
- 五 人事異動(採用、退職、勤務異動、其他)
- 六 役員及職員ノ動靜(主任級以上)
- 七 役員及職員ノ慶弔ニ關スル事項
- 八 雜 報

第一百十條 社報掲載事項ハ各部並ニ各店所ニテ毎月二十五日締切月末迄ニ本社ニ到着スル様發送スヘシ

### 第十三章 宿 舎

第一百十一條 獨身ノ職員ハ各店所内ニ寄宿スヘシ此ノ場合ハ住宅手當ヲ支給セス但シ其ノ設備ナキトキハ此限リニアラス

第一百十二條 職員妻帯者ニシテ店所ニ寄宿シ世話方ヲ命セラレタルトキハ別ニ手當ヲ支給ス

第一百十三條 寄宿所ニ要スル左ノモノハ當會社ノ負擔トス

一 家 賃 二 茶、薪炭、油及燐寸

三 賄用道具 四 婢僕給料

第一百十四條 旅館其ノ他ニ止宿ヲ命セラレタル職員ニ對シテハ宿泊料ノ補助ヲナスコトアルヘシ但シ在勤手當又ハ住宅手當ヲ支給ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス

### 第十四章 配 下

第一百十五條 配下ハ多年當會社ノ工事ニ從事シ人物、技能及成績ノ優秀ナルハ勿論思想ノ善良ナ

ル者ヨリ詮衡シテ之ヲ決定ス

第一百十六條 配下ニシテ怠慢其ノ他ノ不行續アリ又ハ引續キ成績不良ナル場合ハ名義ヲ取消スモノトス

第一百十七條 配下隱退ノ場合功勞アリト認メタル者ニハ役員ノ協議ニ依リ功勞金ヲ贈與スルコトアルヘシ但シ自己ノ都合ニ依リ隱退スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十八條 配下職務ノ爲負傷又ハ死亡シタルトキハ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ特ニ見舞金若ハ弔慰金ヲ贈與ス

配下及其ノ妻病死シタルトキハ特ニ本人ノ事情ヲ斟酌シテ弔慰金ヲ贈與ス但シ病氣ノ場合ハ事情ニ依リ見舞金ヲ贈呈ス

第一百十九條 配下成績優秀ニシテ當會社ノ配下ヲ代表スル資格アルモノハ役員ノ詮衡ニ依リ配下取締ニ選拔ス

配下取締ハ社員待遇トス

第一百二十條 配下取締ハ役員又ハ支店長ノ命ヲ承ケ一ヶ所又ハ數ヶ所ノ出張所配下ヲ指揮監督シ

主任ヲ補佐スルモノトス

第二百一十一條 配下取締ニ對シテハ別ニ定ムル給料及旅費ヲ支給シ報酬等ハ役員之ヲ定ム

第一號表 給料等級

等級	職員
一級	三〇〇圓以上
二級	一五〇圓以上 三〇〇圓未満
三級	一〇〇圓以上 一五〇圓未満
四級	九〇圓以上 一〇〇圓未満
五級	七〇圓以上 九〇圓未満
六級	七〇圓未満

第二號表 在勤手当

一 臺灣、樺太、朝鮮	給料額ノ三割	朝鮮在勤ノ半島人ニハ此ノ半額トシ滿洲人及支那人ニハ支給セス
二 滿洲	給料額ノ七割	滿洲人及支那人ニハ支給セス
三支那	給料額ノ十割	滿洲人及支那人ニハ支給セス 支那ニ於テ特ニ危険區域ニ在勤スルモノニハ更ニ給料ノ五割ヲ加給ス

第三號表 住宅手当

給料別	東京、大阪、新京		樺太、朝鮮、滿洲、支那		其ノ他ノ地方	
	社員以上	雇員	社員以上	雇員	社員以上	雇員
一六〇圓以上	四〇	三五	三〇	二五	二五	二〇
一二〇圓以上	三〇	二五	二五	二〇	二二	一八
九〇圓以上	二五	二二	二〇	一八	一八	一五
七〇圓以上	二〇	一七	一五	一三	一三	一〇
五〇圓以上	一五	一三	一二	一〇	一〇	八
五〇圓未満	一〇圓		八圓		七圓	

但シ世帯主ニアラサルモノ及滿洲人、支那人ニハ之ヲ支給セス、半島人ハ此ノ半額トス

第四號表 退職手當

退職手當ノ算出ハ退職當時ノ給料ニ勤續月數ヲ乘シタルモノヲ百分シ之ニ左ノ勤續年數ニ依ル乘數ヲ乘シテ得タル金額ヲ以テ基準トス但シ休職中ノ勤續月數ハ之ヲ半減シテ計算ス

勤續年數	乘數
滿三年以上五年未滿	八
滿五年以上八年未滿	一〇
滿八年以上十年未滿	一一
滿十年以上十五年未滿	一三
滿十五年以上二十年未滿	一五
滿二十年以上	一八

第五號表 職員慶弔金

區別	金額	摘要
本人ノ結婚	一〇〇圓	
子女ノ結婚	五〇圓	
子女ノ出生	五〇圓	
妻ノ死亡	一〇〇圓	
本人ノ兩親死亡	一〇〇圓	
子女ノ死亡	五〇圓	
本人ノ死亡	若干	
其ノ他ノ事情ニ依ルモノ	若干	本人ノ入營、本人、兩親、妻、子女ノ病氣、災害、其他

但シ雇員ハ半額トス

第六號表 旅 費

給料等給	一級	二級	三級	四級	五級	六級
日當(一日ニ付)	四、〇〇	三、五〇	三、〇〇	二、五〇	二、〇〇	一、〇〇
宿泊料(一夜ニ付)	六、〇〇	五、五〇	五、〇〇	四、五〇	四、〇〇	四、〇〇
汽車、電車賃 <small>(但シ等車ノ定メテキモノハ實費)</small>	二 等又ハ 等	二 等	二 等	三 等	三 等	三 等
船舶賃	一 等	二 等	二 等	二 等	三 等	三 等
徒歩陸行雜費 <small>(二料ニ付)</small>	、三〇	、三〇	、三〇	、三〇	、三〇	、三〇

- 一 東京、臺灣、樺太、朝鮮ニ旅行スル場合ハ日當、宿泊料及赴任手當等ヲ定額ノ三割増トシ、滿洲及支那各地ニ於ケル場合ハ五割増トス(半島人ハ此半額トシ滿洲人、支那人ニハ割増セス)但シ此ノ場合割増ハ割増區域ニ到着シタル日ヨリ同區域ヲ離レタル日迄トス
- 二 鐵道連絡船ハ汽車ニ準ス

- 三 汽車急行券ヲ要スル場合ハ各等共實費ヲ支給ス
- 四 乗合自動車其他ニ乗リタルトキハ實費ヲ支給シ急用ノ爲貸切自動車又ハ航空機ニ搭乘スル場合モ亦同シ
- 五 往復陸路十六料又ハ片道鐵路三十料以内ノ日歸旅行ニアリテハ日當五割ヲ支給ス
- 六 上級者ニ隨行ノ場合ハ同額又ハ實費ヲ支給スルコトアルヘシ
- 七 顧問及囑託ノ旅費ハ前表ノ範圍内ニ依リ適宜等級ヲ定ム
- 八 海外出張ノ旅費ハ其ノ都度役員之ヲ定ム

第七號表 轉勤荷物運賃（荷造費一切ヲ含ム）

等	級	程	三〇	八〇	一五〇	五〇〇	八〇〇	一三〇〇	一六〇〇	二五〇〇	三五〇〇	四〇〇〇
級	程	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以
一	級	四〇	四〇	七〇	八〇	一〇〇	一二〇	一三〇	一五〇	一七〇	一九〇	二二〇
二	級	三五	六〇	七〇	九〇	一一〇	一二〇	一四〇	一六〇	一八〇	二〇〇	二二〇
三	級	三〇	五〇	六〇	八〇	一〇〇	一一〇	一三〇	一五〇	一七〇	一九〇	二一〇
四	級	二五	四〇	五〇	七〇	九〇	一〇〇	一二〇	一四〇	一六〇	一八〇	一九〇
五	級	二〇	三〇	四〇	六〇	八〇	九〇	一一〇	一二〇	一四〇	一五〇	一八〇
六	級	一五	二〇	三〇	五〇	七〇	八〇	一〇〇	一二〇	一四〇	一五〇	一七〇

- 一 四千斤以上ニ亘ル場合ハ其ノ都度之ヲ定ム
- 二 單獨赴任ノ場合ハ本規則ヲ適用セス實費ヲ支給ス
- 三 臺灣、樺太、朝鮮、滿洲及支那ハ二割増トス

### 共濟組合及團體生命保險

#### 共濟組合

西松組には組員相互の吉凶に際しこれを共濟する目的を以て共濟組合が設けられてゐます。大正十四年五月同業間組から早川工事の記念として贈られた基金若干の外に組員の給料等級により釀出金を徴收し、組合員の吉凶の事ある場合組合から組合規程により慶弔金若しくは饒別金を支出することと定めたのがこの組合の濫觴であります。爾後支出の不足分は西松組の決算毎に役員より補助を受け、昭和五年合資會社創立と共に合資會社西松組共濟組合に引繼ぎ、依然共濟事業を續けて來たのであります。昭和十三年一月一日西松組の株式會社改組と共に株式會社西松組共濟組合に引繼いだが、新共濟組合では同日から雇員の加入を認め、組合員の加入範圍を擴大して今日に及んでゐる次第であります。

昭和五年以降に於ける收支は左の通であります。

年次	収入	支出	支給人員	収入金ノ内役員其他寄附金
昭和五年	三、〇七三・二四 <sup>円</sup>	八〇〇・二〇	二七 <sup>人</sup>	六〇〇・〇〇 <sup>円</sup>
六	一、七三一・五六	一、六九九・五〇	四六	六〇〇・〇〇
七	一、七九八・一一	二、三四四・四〇	五三	六〇〇・〇〇
八	三、〇二二・六九	二、三五三・六五	六〇	六〇〇・〇〇
九	三、六九九・一五	二、七三九・八五	八〇	八〇〇・〇〇
一〇	三、八四五・九五	二、六七六・八〇	六六	一、〇〇〇・〇〇
一一	九、一三三・七五	四、二九一・二五	九一	五、九〇〇・〇〇
一二	四、七七七・二九	四、三四四・五〇	一〇六	一、一〇〇・〇〇
一三	七、四六四・四九	八、二四六・九六	二〇六	一、〇〇〇・〇〇
一四	八、三九三・四〇	一三、〇〇五・九一	三三二	
計	四六、九三九・六三	四二、五〇三・〇二	一〇六七	一一、二〇〇・〇〇

### 團體生命保險

前項記載の如く組員の福利施設に就ては個人經營時代以來夙に先代組長及び當時熊本支店長であつた林現社長の考慮を拂つた所ありますが、昭和八年西松組生命保險團體の結成を企圖し、階級に應じて組員の保險加入を慫慂し、組員老後生活の安定、或は遺家族生活援助の資とする事を計つたのであります。昭和九年々初に明治生命保險會社との間に團體生命保險の契約を締結し別項の如き生命保險團體規程を設け、組よりの保險料補助を四割と定めました。組員は、陸續之に加入し最初の一年間にして契約高三三七、〇〇〇圓の多きに達しました。

其後合資會社西松組が昭和十三年一月株式會社西松組に合併せられ、本制度はそのまゝ之に引繼ぎ、更に昭和十四年一月以降よりは組の保險料補助額を五割に増額することゝなりました。株式會社に組織變更後は人員の増加に従ひ保險加入資格者（社員）も遞次増加して現在左表の通りの狀況を示してゐます。



團體生命保險契約狀況

年次	契約件數	契約高
昭和九年度	六八	三三七、〇〇〇 <small>円</small>
一〇〃	七五	四二一、〇〇〇
一一〃	一一一	四八七、五〇〇
一二〃	一五四	五一九、五〇〇
一三〃	一九三	六七三、〇〇〇
一四〃 (十月末迄)	二二五	七〇六、五〇〇

株式會社 西松組 共濟組合規程

第一條 本組合ハ株式會社西松組共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ハ組合員相互ノ親睦ヲ計リ其ノ吉凶ニ際シ共濟スルヲ以テ目的トス

第三條 本組合ハ株式會社西松組職員ヲ以テ組織ス

第四條 本組合ハ株式會社西松組社長ヲ組合長、役員ヲ贊助員、本社各部長、店所長及出張所主任ヲ委員トス

第五條 本組合ノ資金ハ組合員ノ儲出金及贊助員ノ寄附金ニ依ルモノトス

第六條 前條ノ儲出金ハ毎月給料ノ百分ノ二トス但シ雇員ハ其ノ半額トス

第七條 本組合ノ資金ハ之ヲ株式會社西松組ニ預入レ利殖ヲ計ルモノトス

第八條 委員ハ自己所屬組合員中第九條ニ該當スル者アルトキハ疾病ニ在リテハ其病狀經過豫後、災害事故ニ在リテハ其ノ狀況及損害ノ程度ヲ調査シ意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ組合長ニ報告スヘシ

第九條 組合長ハ左ノ標準ニ依リ金額ヲ決定シ之ヲ贈呈スルモノトス但シ雇員ニハ其ノ半額トス

- ス
  - 一 本人ノ結婚 金六〇圓
  - 二 本人ノ入營 金五〇圓
  - 三 子女ノ結婚 金三〇圓
  - 四 子女ノ出生 金三〇圓
  - 五 妻ノ死亡 金七〇圓
  - 六 本人ノ兩親死亡 金七〇圓
  - 七 子女ノ死亡 金三〇圓
  - 八 本人ノ退職又ハ死亡 若 干
  - 九 其ノ他ノ事情ニ依ルモノ 若 干 本人、兩親、妻又ハ子女ノ病氣並ニ災害其他
- 第十條 本組合ノ贈與ニ對シテハ返禮ヲナササルモノトス
- 第十一條 組合員本組合ヲ脫退シタルトキハ組合ニ對シ一切ノ權利ヲ失フモノトス
- 第十二條 組合長ハ株式會社西松組ノ事業年度ニ依リ收支計算ヲナシ組合員ニ報告スルモノトス

- 第十三條 本組合ヲ解散セントスルトキハ組合長ハ賛助員及委員ニ諮問ノ上之ヲ處理スルモノトス
- 第十四條 本組合ハ昭和十三年一月一日合資會社西松組共濟組合ヲ繼承ス

**株式會社 西松組生命保險團體規程**

- 第一條 本生命保險團體ハ團體員ノ老後ニ於ケル生活安定及遺族ノ保護ニ資スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本團體員タルノ資格ハ株式會社西松組職員以上（雇員ヲ除ク）ニ限ル
- 第三條 本團體ハ明治生命保險株式會社ト特約スルモノトス
- 第四條 本團體ニ於テ取扱フヘキ保險ノ種類ハ左ノ二種トス
- イ 十年掛二十年滿期養老保險（團體員五十歲未滿ノ場合）
  - ロ 十年掛有限終身保險（團體員五十歲以上ノ場合）
- 第五條 本團體員ニハ株式會社西松組ニ於テ保險料ノ五割ヲ補助スルモノトス

前項ノ保險料トハ規定保險料ヨリ利益分配金及集金手数料ヲ差引キタル殘額トス

第六條 本團體員ノ保險金ハ等級ニ從ヒ別表ノ金額ニ限ルモノトス但シ社長ノ許可ヲ得テ此ノ金額ヲ超過シテ又ハ倍額保險ノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項但書ノ超過保險料ニ對シテハ前條所定ノ補助ヲ爲サス

第七條 昇給ノ爲別表保險金額ノ増加セル場合ハ保險金増額ノ申込ヲ爲スヘシ

第八條 保險契約事項ヲ變更セントスルトキハ社長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 本規程ニ定メナキ事項ニ關シテハ明治生命保險株式會社約款及同會社ト契約セル生命保險團體特別取扱特約條項ニ依ルモノトス

第十條 保險料拂込方法ハ年掛トシ各店所ニ於テ之ヲ取纏メ拂込期限迄ニ本社ニ送付スルモノトス

第十一條 本團體員株式會社西松組ヲ退職シタルトキハ本團體ヨリ脫退スルモノトス但シ株式會社西松組規則第七十四條但書ニ依リ囑託ヲ命セラレタル者ニ對シテハ社長之ヲ決ス

第十二條 本團體ハ昭和十三年一月一日合資會社西松組ヨリ之ヲ繼承ス

(別表) 保險金額

種別	等級
保險金額	二級以上
	三級
	四級
	五級
	六級

一 本表ノ等級ハ株式會社西松組規則第一號表ニ依ル

# 表彰状及感謝状

## 鐵道工事ノ部

### 表彰状

鐵道五十年祝典ヲ舉行スルニ方リ西松光治郎君カ土木建築業者トシテ我カ國有鐵道ノ事業ニ裨補スル所尠カラサルヲ認メ茲ニ之ヲ表彰ス

大正十年十月十四日

鐵道大臣從三位勳一等 元 田 肇

### 表彰状

松山線伊豫西條松山間鐵道五十哩全區間ノ路盤工事ヲ請負ヒ其成績顯著ナルモノアリ仍テ茲ニ其功績ヲ表彰ス

昭和二年四月七日

鐵道省建設局長男爵 中 村 謙 一

西松光治郎殿

### 表彰状

肥薩線七十二哩十三箇工區ノ申請負施工セルモノ十箇工區ニ及ヒ其ノ成績孰モ良好ナリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和二年十二月七日

鐵道省建設局長男爵 中 村 謙 一

西松光治郎殿

### 賀状

君ハ我業界ノ泰斗ニシテ本會ノ重鎮ナリ曩ニ鐵道省建設局ハ事業成績ノ良好ナルモノニ對シ表彰状授與ノ制ヲ創始スルヤ其ノ第一回ノ選ニ當リ而モ今復重ネテ表彰ヲ受ケラル是獨リ君ノ光榮ニ止マラス本會ノ最モ名譽トスル所ナリ茲ニ燕辭ヲ呈シ以テ慶賀ノ意ヲ表ス

昭和三年四月十二月

土木業協會理事長 菅 原 恒 寛

西松組 西松光治郎殿

謝 狀

片上鐵道井ノ口欄原間拾五杆延長線工事ハ隨所ニ深度ノ切盛土多ク且ツ吉井川ニ架設ノ二大橋梁アリ剩ヘ用地買收遷延ノ爲メ全線一時ニ着工スル能ハサル等難工事ト故障トニ處シ緩急相計リ機宜相應シ以テ請負期限ヲ膠ルコトナク能ク十五ヶ月間ニ之ヲ竣成シテ豫期ノ營業開始ニ支障ナカラシメ其施工ノ成績亦概ネ佳良ナリト認ム蓋シ多年ノ實驗ヨリ得タル技術ト契約ノ履行ニ忠實ナルトニ由ラズンバアラズ茲ニ金盃壹個ヲ贈リ聊カ謝意ヲ表スルモノ也

昭和六年二月一日

片上鐵道株式會社社長

坂野 鉄次郎

合資會社西松組

代表社員 西松 光治郎殿

感 謝 狀

貴社ハ當會社線路建設工事ヲ請負ヒ期間短少、工事至難ナリシニ拘ラス精勵克ク其ノ期ヲ愆ラス良好ノ成績ヲ以テ完成セラレタリ仍テ金杯一個ヲ呈シ感謝ノ微意ヲ表ス

昭和六年三月二十二日

參宮急行電鐵株式會社取締役社長

金森 又一郎

西松組組長 西松 光治郎殿

感 謝 狀

雄羅線延長一五杆餘ノ鐵道建設ニ際シ貴組選ハレテ其ノ第一工區ノ工事ニ膺ラルルヤ始終之ニ善處シ殊ニ同線ノ中間ニ介在セル雄羅隧道ハ其ノ延長三千八百餘米實ニ鮮滿第一ノ長大隧道タルノミナラス全山硬質ノ花崗岩ヨリ成リテ幾多難工事ニ逢着セルニ拘ラス克ク萬難ヲ排シテ工事ノ進捗ニ努力シ起工後僅ニ二年有四箇月ニシテ工ヲ竣リ茲ニ全線ノ開通ヲ見ルニ至レルハ貴組従事員一同能ク當社ノ國家的使命ニ鑑ミ戮力協心其ノ工ニ當ラレタルニ因ルモノニシテ其ノ功績洵ニ顯著ナリ依テ茲ニ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス

昭和十年十一月九日

南滿洲鐵道株式會社總裁

松 岡 洋 右

合資會社 西 松 組

代表社員 林 米 七 殿

感謝狀

株式會社 西 松 組

貴社請負ニ係ル八幡濱線夜晝隧道工事ハ本邦鐵道建設史上稀ニ見ル難工事ニシテ昭和八年一月起工以來幾多ノ障礙ニ遭遇シ施工極メテ難澁ナリシモ五箇年有餘ノ星霜ヲ閱シテ遂ニ本日竣成ヲ見ルニ至リタルハ之偏ニ貴社従事員ノ堅忍不拔ノ努力ニ負フ所甚大ナリト信ス洵ニ感謝ニ不堪依テ茲ニ厚ク謝意ヲ表ス

昭和十三年七月五日

鐵道省山口建設事務所長 稻石洋八郎

感謝狀

西松組

藤倉 潔 殿

昭和十三年八月十八日乃至二十八日襲來セル間島地方ノ豪雨ハ同地帯ニ在ル管内鐵道ニ未曾有ノ

水害ヲ惹起シ其ノ被害區域ハ圖佳線圖門天橋間八十五軒京圖線葦子溝圖門間十餘軒ニ及ヒ橋梁流失築堤決潰道床埋沒ハ其ノ數百四十有餘箇所ヲ算シ北鮮方面ノ水害ト共ニ東滿縱貫線ハ其ノ交通ヲ全ク杜絶スルノ已ムナキニ至レリ

時恰モ張鼓峰事件ノ餘燼未タ去ラス之カ復舊ハ寸刻ノ急ヲ要スルノ秋貴組員一同進ムテ此ノ難關ニ當リ日夜困苦窮乏ニ耐ヘ協力一致復舊作業ニ盡瘁セラレタル結果豫期以上ノ好成绩ヲ以テ其ノ目的ヲ達成シタルハ小職ノ洵ニ感激ニ堪ヘサルトコロナリ  
茲ニ感謝狀ヲ贈呈シ其ノ勞ヲ稿フト共ニ深甚ナル謝意ヲ表ス

昭和十三年九月二十六日

南滿洲鐵道株式會社牡丹江鐵道局長

足立 長 三

感謝狀

當會社線路建設ニ際シテハ地勢上意外ノ難工事ニ逢着シ加フルニ非常時局ノ影響ヲ蒙リ資材ノ缺乏並ニ物價昂騰ノ苦境ニ陥リシニ拘ラス能ク難關ヲ打開シ所期ノ時日ニ建設ノ重責ヲ果サレシハ

貴社ノ熱誠ノ致ス所トシテ推服ニ堪ヘス茲ニ之ヲ誌シテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十三年十一月

關西急行電鐵株式會社取締役社長

種田虎雄

株式會社西松組

取締役社長 林 米七殿

感謝狀

株式會社 西松組

取締役社長 林 米七殿

貴社ニ於テ當社鐵道定州、青水、富豐、水豊間建設工事ヲ請負施行ノ際ハ偶支那事變勃發セル爲幾多ノ困難ニ遭遇シタルニ拘ラス克ク萬難ヲ排シテ迅速ニ竣功セシメタルハ洵ニ感謝ニ堪ヘス茲ニ開通式ニ當リ深甚ノ謝意ヲ表ス

昭和十四年九月三十日

平北鐵道株式會社社長

野口

水力發電工事ノ部

謝狀

當會社山梨縣桂川水路工事ヲ請負ヒ大正七年初夏ニ着手シ同八年薄冬ニ竣了ス其間歐洲大戰ノ時局ニ伴ヒ經濟界ノ激變ヲ生シ諸價暴騰シ人心ノ安定ヲ欠クノ時銳意努力克ク其難境ニ處シ内ニ部下ヲ督勵シ外ニ工事ノ進捗ヲ圖リ以テ請負ノ全部ヲ無事完了シタルハ深ク欣幸トスル所ナリ仍テ別紙目錄ノ通金杯壹組贈與シ聊カ謝意ヲ表スルモノ也

大正九年七月 日

桂川電力株式會社取締役會長

池上仲三郎

西松組主 西松光治郎殿

謝狀

當會社須崎丸田ニ水路土木工事ハ貴組之ヲ請負晝夜奮勵工事期間二ヶ月ヲ短縮シタル而已ナラス運搬道路開鑿ニ就テモ萬難ヲ排シテ竣工何等支障ナク輸送終了シ得タルハ當社ノ欣幸トスル處ナ

リ依而茲ニ金一封ヲ呈シ聊カ成工ノ謝意相表シ候也

昭和五年十月十五日

九州水力電氣株式會社取締役社長

麻生太吉

西松組御中

感謝狀

本社川邊川第二發電所建設工事ニ際シ精勵克ク其ノ任ニ膺リ特ニ五箇月ノ工期短縮ヲ圖ルヤ日夜  
従事員ヲ激勵シ多大ノ困難ニ打ち克テ豫定ノ期間内ニ竣工ヲ見タルハ全ク貴社一同ノ熱誠ト獻身  
的努力ノ致ス所ニシテ誠ニ感謝ニ堪ヘス仍テ茲ニ金壹封ヲ贈呈シ深甚ノ謝意ヲ表ス

昭和拾年拾貳月廿七日

熊本電氣株式會社

合資會社 西松組殿

感謝狀

野畑發電所土木工事ハ一部所定ノ着手期限著シク遅延シタルニ拘ハラヌ貴社従業員諸氏ノ熱誠ナ

ル努力ニ依リ克ク當社所期ノ目的ヲ達成シタリ依テ金壹封ヲ贈呈シテ聊カ謝意ヲ表ス

昭和拾壹年九月 日

九州水力電氣株式會社

合資會社 西松組殿

感謝狀

佐賀發電所建設工事ニ當リテ幾多困難ナル事情アリタルニモ不拘能ク之ヲ克服銳意工程ノ進捗ニ  
努メ遂ニ豫定期間ニ工事ヲ完成シ通水後ノ成績亦優秀ナリ之畢竟貴社カ常ニ誠實事ニ當ラレタル  
結果ニ外ナラスト認ム仍テ茲ニ金壹封ヲ贈呈シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十三年三月三日

四國中央電力株式會社

株式會社 西松組殿

感謝狀

當社塚原水力發電所ハ出力五萬キロワットノ大發電所ニシテ昭和十年八月其工ヲ起スニ當リ隧道



及發電所建物施行者トシテ特ニ貴社ヲ選定シタルトコロ貴社ハ能ク當社ノ意ヲ體シ細心ナル注意ノ下ニ工事遂行ニ努力セラレ而モ工事中央ニシテ突如支那事變勃發ニヨル非常時局ニ遭遇シタルニモ不拘克ク幾多ノ難關ヲ排シ多大ノ犠牲ヲ忍ヒ豫定ノ工期ニ好成績ヲ以テ此大工事ヲ完成セラレタルハ當社ノ欣幸措ク能ハサルトコロニシテ將又邦家ノ爲慶祝ニ堪ヘサルトコロナリ仍而聊カ其勞ニ酬ユル爲金壹封ヲ贈呈シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十三年九月十九日

九州送電株式會社常務取締役

內 本 浩 亮

株式會社西松組

取締役社長 林 米 七 殿

道路、橋梁、河川工事ノ部

賞 狀

西 松 光 治 郎

右者宮城外苑内廣場工事ヲ請負ヒ日夜精勵克ク其ノ工ヲ竣ヘタリ仍テ茲ニ表旌ス

昭和三年十月五日

復興局土木部長 大 岡 大 三

感 謝 狀

本校々舎改築ノ設計成ルヤ貴會社之方施行ニ膺リ昭和三年十一月起工以來熱誠以テ近代技術ノ精ヲ盡シ現場員諸君亦夙夜懈ラス勉勵事ニ從ヒ遂ニ能ク竣工ノ成果ヲ見ルニ至ル茲ニ落成式ヲ舉クルニ當リ記念品ヲ贈呈シテ貴社ノ多大ナル努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和六年二月廿五日

熊本縣立八代中學校長 谷 田 澤 隆 甫

合資會社 西 松 組 殿

感 謝 狀

工事請負人 合資會社 西 松 組

本會事務所建築工事請負人トシテ指名シタル所本年六月工ヲ起シ幾何モナクシテ變態的長期ノ梅

雨ニ妨ケラルルノミナラス炎熱燼クガ如キ酷暑ト戰フ等其間ノ困苦實ニ堪ヘ難キモノアリト雖能ク之ヲ凌キ熱誠工事ニ從ヒ無事竣工セシメタリ其ノ勞寔ニ尠少ナラス依テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和六年十二月二十四日

保證責任熊本信用組合聯合會

會長理事 齋藤長八

感謝狀

今回昭和六年特別大演習紀念事業トシテ本町ニ上水道布設工事ヲ起工スルニ當リ是カ請負人トシテ終始一貫熱誠事ニ當リ本日最モ優秀ナル成績ヲ以テ竣工スルヲ得タリ本町ハ爰ニ謝狀ヲ呈シ感謝ノ微意ヲ表ス

昭和七年三月二十二日

熊本縣上益城郡砥用町長 石田忠吉

合資會社 西松組 殿

感謝狀

小倉中學校運動場擴張ニ當リ其工事ノ竣工ヲ見タルハ之終始渝ラサル熱誠ト採算ヲ顧慮セス多大ノ犠牲ヲ拂ヒ精神的ニ奮闘セラレタル結果ニ外ナラス茲ニ本會ハ金豊封ヲ贈呈シ衷心感謝ノ意ヲ表ス

昭和七年十月十六日

小倉中學校運動場擴張後援會長 安川清三郎

合資會社 西松組 殿

感謝狀

須崎橋及五箇瀬橋架替工事ニ際シテハ常ニ精勵克ク其ノ任ニ當リ且ツ水中作業ノ如キ多大ノ困難ヲ排シテ作業ニ從事シ本日竣工ノ式典ヲ舉クルニ至ル其ノ功績誠ニ尠シトセス仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年四月七日

延岡市長 仲田又次郎

合資會社 西松組

感謝狀

合資會社 西松組

右ハ曩ニ本縣椎葉細島港線ノ道路橋梁工事ヲ請負ヒ克ク監督員ノ指揮ヲ遵守シ萬難ヲ排シ豫定ノ  
工事ヲ完成シ其ノ責任ヲ全ウシタリ仍テ茲ニ銀盃一個ヲ贈リ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年十二月七日

宮崎縣知事正五位勳四等 君 島 清 吉

感謝狀

縣營井芹川改修工事ノ進捗如何ハ本市段山町上熊本驛前間軌道敷設工事ノ進行上ニ影響ヲ及ボス  
コト尠カラス貴社ハ井芹川改修工事ヲ擔當シ事業相互ノ事情ヲ克ク諒知シ該工事ノ進捗ヲ阻害ス  
ル幾多ノ事由アリシニ拘ラス匪勉精勵晝夜兼行工ヲ進メ以テ軌道敷設竣工ノ促進ニ努メ本市ノ事  
業ニ貢獻セラレタルコト多大ナリ依ツテ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十年四月十八日

熊本市長 山 隈 康

合資會社 西松組

感謝狀

土木建築請負業 西松組

右者自昭和七年至昭和十一年度五箇年間坪井川改修工事請負ノ重責ニ任シ終始一貫誠實業務ニ盡  
瘁シ克ク所期ノ好果ヲ納メテ竣工セシムルコトヲ得タリ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十二年六月十日

熊本縣知事從四位勳三等 藤 岡 長 和

組員數表

年次	組員	雇員	計
大正三年	六	一	七
四	一五	一	一六
五	二一	一	二二
六	二三	一	二四
七	三一	一	三二
八	三九	一	四〇
九	五二	一	五三
一〇	五五	一	五六
一一	四九	一	五〇
一二	四三	一	四四
一三	五〇	一	五一
一四	五二	一	五三
一五	六六	一	六七
昭和二年	八〇	九一	一七一
三	一〇一	八六	一八七
四	九七	八一	一七八
五	九五	八〇	一七五
六	一〇四	七五	一七八
七	一〇四	七五	一七八
八	一一四	九〇	二〇四
九	一二三	一一一	二三四
一〇	一二九	一一五	二四四
一一	一三四	一五八	二九二
一二	一六九	一五八	三二七
一三	二八三	三二一	六〇四
一四	三二〇	四二九	七四九

店所開設數表

(出張所中ニハ營業所、工事々務所、派出所ヲモ含ム)

年次	支店	出張所	計
大正三年	一	一	二
四	一	二	三
五	一	三	四
六	一	四	五
七	一	五	六
八	一	六	七
九	一	七	八
一〇	一	七	八
一一	一	七	八
一二	一	七	八
一三	一	七	八
一四	一	七	八
一五	一	七	八
昭和二年	二	二〇	二二
三	二	一九	二一
四	二	一七	一九
五	二	一五	一七
六	二	一四	一六
七	二	一三	一五
八	二	一二	一四
九	二	一二	一四
一〇	二	一二	一四
一一	二	一二	一四
一二	二	一二	一四
一三	二	一二	一四
一四	二	一二	一四
一五	二	一二	一四
一〇月四年末	四	五九	六三

年次別工事請負高表

(單位千圓)

年次	鐵道	水力電氣	建築	河川港灣	道路橋梁其他	合計
大正三年	一九五					一九五
四	二六三					二六三
五	三八六	六二五				一、〇一一
六	七九					七九
七		一、五二八				一、五二八
八	二、三五一	一八〇				二、五三一
九	八四二	一、二二一				二、〇六三
一〇	一、四〇四	四五八				一、八六二
一一	三、一四七		四四			三、一四七
一二	一、四三一		五四			一、四七五
一三	二、〇一七	九四七			二一八	三、二三六
一四	四、五四八	一九八四	五一三	一〇四	三一七	七、四六六
一五	一、七五〇	六〇六一	四一八		二〇	八、一四九

昭和二年	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	計
一、八七九	一、三五六	一、七八八	六九八	一、五一八	一、五三三	二、八六五	二、九二六	一、七七六	一、一二七	七、九九七	七、六四五	三、〇四〇	五四、五六一
	五八五	二一四	二一六		一、八〇一	四、一八五	九九八	四、四九八	二、九七二	二二、〇八三	一二、五三七	一六、五〇五	七九、五九八
五、二九七	四一一	一二三	三、三五八	一、二二五	二、〇五七	二、七一八	五、二三九	三、七六二	四、六七六	四、九八〇	九、四五三	九、三五二	五三、六八〇
			一九三	九八一	五九六	四八八	二〇三	九一	一一五	三三		五八	二、八六二
一九	二、一八五	四一三	六三六	二〇九七	一八五	一〇二	二三四	二〇八	九三二	一、五八九	八、一六五	七、九四三	二五、二六三
七、一九五	四、五三七	二、五三八	五、一〇一	五、八二一	六、一七二	一〇、三五八	九、六〇〇	一〇、三三五	九、八二二	三六、六八二	三七、八〇〇	三六、八九八	二一五、九六四

請負件數ト請負金額

(一口一萬圓以上)

(單位千圓)

工 事 種 別	時 代 別		合 計	
	個人經營時代	合資會社時代	株式會社時代	合 計
	件數	金額	件數	金額
鐵道建設	七四	二三、四三六	五四	二〇、四四〇
水力發電	二四	一三、八〇三	三五	三六、七五三
建 築	三〇	六、八六〇	一一八	二八、〇一五
河川港灣	一	一〇四	一九	二、七〇〇
其 他	二八	三、一七二	六一	五、九八三
合 計	一五七	四七、三七五	二八七	九三、八九一
			二〇八	七四、六九八
			六一	二五、九六三

跋 後 に

一、本書は西松組の創業二十五週年を記念する意圖の下に編まれたものであるが社務匆忙の間に執筆したものであるから、記述往々にして徹底を缺く嫌ひあるのは深く愧ぶるところである。

一、殊に個人經營時代に於ける史實の據るべき文献なく、加ふるに支那事變勃發後、或種工事に就ては詳細敘述する自由を持たなかつたことは、遺憾とするところで、各位の諒恕を請はねばならない。

一、巻頭並に本文中に掲出挿入した各種工事の施行實況寫眞も、種々の制約を受け、豫定の半數も收掲することが出来なかつたことに就ても、同様の諒恕を仰がねばならない。

一、又本書は昭和十四年十月三十日附上梓の豫定を以て編まれたものであるが、偶々、廿五週年記念事業の一たる愛國獻納機及社屋新築に關する寫眞並に記事をも輯録することとした結果、事實上の上梓が十五年六月に延期せられ、本文中の記述及統計と發行日との間に隔差を生じた次第である。

昭和十五年六月三十日 印刷  
昭和十五年七月十日 發行

【非賣品】

東京市澁谷區千駄谷二丁目四五〇番地

編輯兼印刷 佐野勇吉

東京市赤坂區新町四丁目三番地

印刷所 大橋印刷所

東京市芝區西久保櫻川町一三番地

發行所 株式會社西松組

終